

担い手育成特定資産事業 活動事例紹介 山崎 慎弥さん（宮古市）

執筆者 宮古農業改良普及センター 千田聡実

山崎慎弥さんは、長野県農業大学校で果樹栽培を学び、宮古市で農業を営む父の経営の一部を継承し、平成27年に果樹専作で就農しました。

現在は、リンゴ60a、モモ6aを栽培しています。

山崎さんは、生産物を主に個人販売をしています。これまで管理や出荷調整などの作業で忙しい時期は、机においた貯金箱にお客さんがお金を入れる形での無人販売としていたため、お金を払わずに持ち去られたり、設定した金額より安く支払われていたり、販売に苦戦していました。

そこで、令和2年度に岩手県農業公社の新規就農スタートアップ支援事業を活用し、「多目的自動販売機」を導入しました。

「多目的自動販売機を導入し、お金の投入後に商品を取り出す仕組みになったことで、確実な販売ができ、安心しています」と語る山崎さん。

事業を上手に活用し、経営課題の一つをクリアできたようです。

また、栽培管理に専念できるようになったことから、次の課題である目標反収の達成や、新たな可能性としての多目的自動販売機の活用による販売促進についても、これまで以上に目を向けられるようになった様子です。

一つ一つ課題を解決し、着実にステップアップしていくことで、今後の山崎さんの経営発展が期待されるところです。



園地でリンゴの管理をする山崎さん



導入した多目的自動販売機